



特色ある取組

Ⅰ 道内の小・中学校における特色ある取組

ここでは、児童生徒の体力の向上について、道内の小・中学校における特色ある取組を掲載しています。

各市町村教育委員会及び学校においては、道内の特色ある取組を把握し、今後の取組を工夫改善するなど、各地域や学校における取組の更なる充実に向け、本資料を御活用ください。

【空知管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 10市14町
- ・ 小学校数：56校
 - ・ 中学校数：37校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・ 「資質・能力」の育成につながる教育課程の検証・改善
- ・ 地域と学校の連携・協働の推進

■ 児童生徒の実態に応じた体育科の授業改善

【取組①】

- ・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点や質問調査の回答から3つのグループに分類し、特徴に応じたきめ細かな指導を実施した。
- ①「高意欲・高関与」グループ：リーダー的な役割
- ②「受動的・限定的関与」グループ：成功体験の蓄積及び主体的に挑戦する機会の確保
- ③「低意欲・非関与」グループ：安全・安心な環境設定及び段階的な成功体験の形成

【成果と課題】

- サーキットトレーニング等の個に応じた運動の場を設定することにより、主に②、③グループの児童が自身の課題に応じた場を選択し、主体的に学習活動に取り組むことができた。
- 体育科の授業だけでなく、学校生活や家庭における日常的な運動習慣に結び付くよう運動への意欲を高める必要がある。

■ 給食時間を活用した食育動画配信

【取組②】

- ・ 滝川市では、給食時間を「学びを深める時間」へと発展させることを目的として、栄養教諭が企画・制作した市内の小学生向け食育動画「滝川市食育ちゃんねる」を週1回配信し、各学校において給食時間に視聴する時間を設定している。本動画では、月ごとの食育の目標の解説や給食調理の様子、養護教諭と連携し、健康に関する内容等を取り上げている。

【成果と課題】

- 給食の調理工程を知ることによって、児童が給食をより身近に感じるようになり、給食に携わる方々への感謝の気持ちや食への関心の向上につながった。
- 中学校においては、給食時間が短く、動画を給食時間内に視聴することが困難であることから、動画の内容や指導方法を工夫する必要がある。

【石狩管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 6市1町1村
- ・小学校数：267校
- ・中学校数：136校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・体力向上に向けた検証改善サイクルの確立
- ・各学校における体育科・保健体育科の授業改革
- ・小学校体育エキスパート教員等と連携した体力向上に係る組織的・協働的な取組の推進

■ 授業実践・改善セミナーの実施

【取組①】

・各学校における資質・能力をバランスよく育成するための単元を見通した指導の充実に向け、優れた教科指導力を有する教員を講師とした公開授業や研究協議などの実践的な研修を実施した。

学習の流れ	25	性(落下地点に入る動き) ③補助運動 ・ネットなし対面パス(ボールの高さ、位置、ボールを持っていない動きを意識させる)	・チームを半分に分けて、1点マッチ勝ち残り。 ・3人の中での役割やポジショニングを考える ・タッチネットに気をつける ・ラリーを続けること →得点を取りにくい意識へ変えていく	③6対6 ・役割分担(レシーブ・トス・スパイク) ・ローテーションあり ・フロントプレイヤー バックプレイヤーを都度確認しながらゲームを進める ※練習の方法についても理解を深める
	50	④試合のゲーム(6対6) ・チームバランスの確認 ・クラス全体の課題の焦点化 ※実況や毎様、運動の関わり方について理解を深		
評価計画	知識技能	知① (技①)		
	思考判断表現		②	
	強健に 課題 ①			②

【資質・能力の関連を明確にした単元構造図】

【成果と課題】

- 資質・能力の関連性を明確にした単元構造図に基づく公開授業や研究協議等を通して、資質・能力をバランスよく育成するための単元を見通した指導の充実について理解を深めることができた。
- 教育局ホームページや学校教育指導訪問における指導助言等を通じて、管内市町村教育委員会や各学校へ本研修内容を普及するなどして、管内全体の体育科・保健体育科の授業力向上につなげていく必要がある。

■ 日常的な運動機会の創出

【取組②】

・児童の基礎的な体力向上に向け、放課後に学校の体育館等を活用し、地域学校協働活動の一環として、地域の多様な方々の協力の下、児童がスポーツ等に取り組む「放課後子ども教室」を定期的開催している。



【放課後子ども教室での活動の様子】

【成果と課題】

- 地域の専門的な人材や関係機関と連携して学校外における児童の日常的な運動機会を創出し、楽しみながら運動に取り組む環境を整えたことにより、体力合計点において全国平均を上回る結果につなげることができた。
- 運動習慣等形成連絡協議会などの機会を通じ、管内市町村教育委員会や各学校へ特色ある取組について普及することなどにより、児童生徒が日常的に運動に親しむ機会を創出する必要がある。

【後志管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 1 市13町6村
- ・小学校数：54校
- ・中学校数：36校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・子ども一人一人の可能性を引き出す教育の推進
- ・学びを選択・自己調整できる指導計画や学習環境の充実
- ・デジタル学習基盤の効果的な活用

■ 1人1台端末の活用による柔道の授業改善

【取組①】

- ・1人1台端末を活用し、手本の動画や解説資料など複数の資料を用いて、自己の課題に応じた動きのポイントを確認する活動を取り入れた。
- ・グループで簡易な攻防の様子を撮影し、課題の解決に向けて、自他のよさや改善点、動きのポイントを発見し、伝え合う活動を取り入れた。
- ・本時の後半に、再度、確認した動きのポイントを意識して、簡易な攻防を行う活動を設定した。

【成果と課題】

- 運動観察の視点を明確にしたICTの活用により、正しく体を動かすための技術的なポイントへの理解を深めることができた。
- 理解したポイントを意識しながら行う簡易な攻防の設定により、自己の技能の高まりを実感させる学習過程にすることができた。
- 級友との活動に消極的な生徒に対する関わり方を工夫することにより、グループでの伝え合う活動を活性化させる必要がある。

■ 新体力テストに係る組織的な取組

【取組②】

- ・前年度の新体力テストの分析結果を踏まえ、課題がある種目に焦点化を図った体力向上策を計画し、職員会議において全教職員に共通理解を図った。
- ・新体力テストの種目の動きに慣れることをねらいとして「体力アップコーナー」を設置した。用具の常設、運動の行い方や動きのポイントを紹介する掲示など、休み時間に児童が自主的に活用できる環境を整備した。

【成果と課題】

- 休み時間等に、児童が主体的に新体力テストの種目に応じた運動に取り組む姿が見られるようになった。自己の興味や関心に応じた運動に日常的に取り組むことができる環境を整備したことにより、児童が主体的に運動する機会を創出することができた。
- 活動内容が固定化し、児童の関心が低下する傾向が見られたことから、後期に新たな運動を導入するなど工夫する必要がある。

【胆振管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 4市7町
- ・小学校数：62校
- ・中学校数：44校

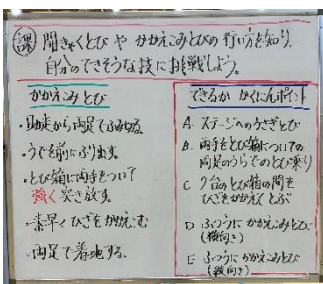
■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・子どもが自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法の確立・共有・活用
- ・運動やスポーツに意欲的に取り組む態度の醸成

■ 児童自ら課題解決を目指すための授業づくり

【取組①】

- ・学習課題や動きのポイントなどを可視化することで、児童が自ら運動の課題の解決を目指し、自己調整しながら学びを進められるようにした。
- ・遅延カメラなどのICT機器を活用し、自己の動きを客観視できるようにするとともに、多様な運動の場を設定することにより、児童が自己の能力や課題に応じた練習の場を選択できるようにした。



【成果と課題】

- 学習課題等の可視化やICT機器の活用により、児童が自己の課題を把握し、見通しをもって活動することができた。また、課題に応じた練習の場を選択させることにより、児童が自ら運動の課題の解決を目指す態度を醸成することができた。
- 課題に応じた練習の場の準備に時間がかかることから、準備の進め方を工夫する必要がある。

■ 外部講師を活用した保健領域の学習の充実

【取組②】

- ・小学校の保健領域における学習内容を学校生活や学校以外の生活などに関連付けた取組として、専門的な知見をもつ外部講師の講話を通して、病気の予防などについて理解を深められるようにした。
- ・第6学年において、薬剤師による薬物乱用防止教室や医師によるがん予防教室を実施するなど、地域における保健に関わる様々な活動について考えることができるようにした。

【成果と課題】

- 外部講師から直接話を聞くことにより、小学校の保健領域における学習内容に対する関心が深まるとともに、学校生活や学校以外の生活などに関連付けて考え、学びを深めることができた。
- 講話に関連する保健の学習を行う時期と講師派遣の時期を合わせるために年間指導計画の見直しをするなどして、学習効果を高める必要がある。

【日高管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 7 町
- ・ 小学校数：22校
- ・ 中学校数：14校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・ 子ども一人一人が資質・能力を確実に身に付ける教育の推進
- ・ 子どもの学びの質を高める環境の確立
- ・ 自主・自立的な生活習慣、学習習慣の確立

■ 系統性を意識した授業づくり

【取組①】

- ・ 日高教育研究所・教職員研修センター主催の研修講座で、小学校体育エキスパート教員による前年度の学習内容を踏まえたゴール型ゲームの授業公開や北海道教育大学旭川校高瀬教授による学習指導要領の構造についての講義を通して、系統性を意識した授業づくりについて理解を深めた。



【成果と課題】

- 授業参観と有識者の講義を関連付けて実施したことにより、参加者が理論を踏まえて運動領域の系統性を意識した授業のイメージをもつことができた。
- 研修講座に参加していない管内の教員にも成果を広めることができるよう、普及の方法について工夫する必要がある。

■ 主体的に体力向上に取り組むための取組

【取組②】

- ・ 小学校において、外遊び啓発ポスターを掲示したり、校庭の植木や固定遊具等をコースに組み込んだ「クロスカントリーコース」を設定し休み時間に開放したりすることにより、児童が意欲的に運動できる日常的な取組の充実を図った。



【成果と課題】

- 新体力テストにおける50m走の記録が上昇するなど、児童の体力が向上するとともに、休み時間に外で遊ぶ児童が増えるなど、児童が主体的に運動に親しむ機会を増やすことができた。
- 運動に親しむことができない児童が一定数いることから、今後、全ての児童が主体的に取り組むことができるよう、取組内容を検討する必要がある。

【渡島管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 2市9町
- ・小学校数：75校
- ・中学校数：40校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・学びや地域の資源をつなげる「検証改善サイクルの確立」
- ・資質・能力を身に付ける「体育・保健体育の授業改善」
- ・安心感と充実感を創り出す「望ましい生活習慣、運動習慣の確立」

■ 体育科・保健体育科の授業改善の取組

【取組①】

- ・管内の教員及び市町教育委員会指導主事を対象に、体育エキスパート教員を講師とした研修を実施し、体育・保健体育の授業における授業改善及び新体力テストに係る取組について実践発表を行い、その発表内容を基に局独自の指導資料を作成して管内に周知した。



【成果と課題】

- 体育・保健体育の授業改善及び新体力テストに係る好事例を広く周知することにより、児童生徒が「できる・わかる・楽しい」を実感できる体育・保健体育の授業につなげることができた。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体育が苦手な児童生徒の多くは、自分に合ったペースで行うことができたなら、今より体育の授業が楽しくなると回答していることから、安心感を与えたり、選択肢を与えたりするなどの指導の工夫を行う必要がある。

■ 体育科・保健体育科の授業以外の取組

【取組②】

- ・管内の中学校区において、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果及び全学年の新体力テストの結果を共有・協議し、児童生徒の体力向上を図る共通の取組として、休み時間に「なわとびカード」を活用し継続的に体力向上の取組を行った。



【成果と課題】

- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果や全学年の新体力テストの結果を共有・協議することにより、継続的に児童生徒の成長を捉えるとともに、体力向上に向けた取組について検証改善を図ることができた。
- 体力向上に向けて、朝食の摂取や睡眠時間、スクリーンタイムなどの生活習慣の改善を図る取組を推進する必要がある。

【檜山管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 7 町
- ・ 小学校数：15校
- ・ 中学校数：10校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・ これまでの実践とICTとのベストミックス
- ・ 児童生徒が進んで学習に参加する授業実践の充実
- ・ 教職員一人一人の専門性向上に向けた研修機会の充実

■ 系統性を踏まえた単元デザイン

【取組①】

- ・ 小学校学習指導要領解説「体育編」に示されている「例示」から、各学年で身に付けさせたい技を単元別に分かりやすく整理した。
- ・ 上記の内容を全教職員で共有することにより、授業において指導項目を誰でも確認することができるようにするとともに、児童が自己の課題解決に向けて必要に応じて下学年の技を選択できるように工夫した。

【成果と課題】

- 技能の習得に向けて、系統的なつながりを可視化し、学年間で一貫した指導体制を確立することができた。
- 児童が自己の課題に応じて、下学年の技を選択できるようにしたことで、自らの学習を振り返り、課題の解決を図る姿が見られた。
- 系統表を活用する際、例示に示された技能の習得のみに陥らないよう、3観点をバランスよく育成する必要がある。

■ 検証改善サイクルを生かした組織的な取組

【取組②】

- ・ 全ての学年が、ほぼ同時期に同じ領域の学習を進められるように年間指導計画を工夫した。
- ・ 全教職員で年間指導計画を共有し、用具の準備の効率化を図ることにより、活動時間や運動量を多く確保した。
- ・ 児童の学習の成果と課題を学年間で共有したり、教師が互いの実践を比較・検証したりすることにより、学校全体で指導力の向上を図った。

【成果と課題】

- 随時学校全体で年間指導計画の改善点を検討することにより、次年度の年間指導計画に反映することができた。
- 同時期に同じ領域の学習を行うことにより、上級生がどのような学習をしているかを下級生が確認でき、学習意欲の向上が図られた。
- 系統性を踏まえた授業実践では、教員間で指導力に差が見られることから、年間指導計画を活用し組織的に取組を進める必要がある。

【上川管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 4市17町2村
- ・小学校数：106校
- ・中学校数：59校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- 上川学びフォーカス 学びを伸ばす～学力・体力向上～
- ・ 学校の課題や子どもたちの実態を踏まえた体力向上の取組の充実～健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現に向けて～

■ 系統性を踏まえた単元デザイン、教材の工夫

【取組①】

- ・ 中学校「E球技 ア ゴール型」の領域において、学習指導要領に示されている「空間に走り込むなどの動き」を実現するため、小学校からの系統性を踏まえ、バスケットボールとタグラグビーを組み合わせた教材を開発した。

【成果と課題】

- 小学校からの系統性を踏まえ、単元全体を通して、教師が生徒に「空間に走り込むこと」を意識させるとともに、生徒の実態を捉え、ルールや用具を工夫したことにより、走り込むための空間が自然と生まれ、全ての生徒に運動の楽しさや爽快感を味わわせ、苦手意識をもたせないような教材を開発することができた。
- 児童生徒の資質・能力の育成につながる授業改善に向け、他の領域においても、系統性を踏まえた単元デザイン、教材の工夫を行うとともに、小学校との連携を深め、教材の工夫を重ねるなど、取組を継続する必要がある。

■ 体力向上に向けた組織的・計画的な取組

【取組②】

- ・ 新体力テストの分析結果を踏まえ、体力向上プランを作成し、子どもの運動への意欲を高めるために身近なスポーツの情報や新体力テストのポイントを掲示した「体育コーナー」を常設するとともに、「2」がつく日の休み時間に全校で鬼ごっこを実施する「02（おに）の日」の設定及び長縄跳びの活動の充実を図った。



【体育コーナーの掲示】

【成果と課題】

- 「体育コーナー」の設置により、子ども同士がスポーツについて交流するきっかけとなるとともに、教師と全校の子どもが一緒に鬼ごっこや長縄跳びを行う機会を通して、子どもの運動機会の確保と運動への意欲を高めることができた。
- 子どもの運動に対する意欲喚起と習慣化に向け、取組の効果検証を行い、掲示物の内容や取組方法等の改善を行う必要がある。

【留萌管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 1市6町1村
- ・小学校数：16校
- ・中学校数：11校

■ 体力向上に向けた取組の重点

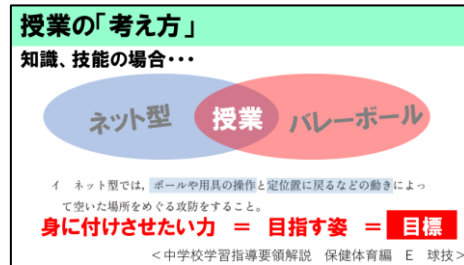
- ・体力・運動能力向上と体を動かすことへの意欲向上を目指した組織的な取組
- ・学習習慣、運動習慣など望ましい生活習慣の確立に向けた市町村・学校・家庭・地域が連携した取組

■ 推進教員を講師とした授業改善に向けた取組

【取組① 増毛町立増毛中学校 山形教諭】

初任段階教員及び期限付教員の指導力向上及び体力向上の取組の充実を図るため、授業改善推進教員を講師として公開授業や協議などの研修を行った。

単元のゴールを明確にして、生徒に身に付けさせたい資質・能力を育成するために、学習指導要領を踏まえて、学習活動を考えること等を確認した。



【成果と課題】

- 参加した教員から、単元デザインやICTの効果的な活用など、学びを深めるための具体的な手立てについて見通しをもつことができ、授業改善に大変参考になったという意見が多数出された。
- 広域な管内において、教科担任が1名の学校が多いことから、「バーチャルオフィス」等を活用して、日常的に授業改善に向けて相談できる場を整える必要がある。

■ 体力・運動能力の育成に向けた日常的な取組

【取組② 羽幌町立羽幌小学校】

「育てて、伸ばして、高める活動の場」のテーマ達成に向け、調査結果を踏まえた実態から課題を明確にし、教育活動全体を通して体力・運動能力向上に向けた取組を推進した。

保健体育係が中心となり、全校で取り組むことができる体力づくりの活動を考案し、実践を通して、改善・充実を図った。



「フットビーサッカー」を楽しむ児童の様子

【成果と課題】

- 質問調査の「運動が好き」の項目において、男子が100%、女子が82.4%肯定的な回答をしており、日常的な取組を通して体を動かすことの楽しさを感じている児童が多い。
- 調査結果を踏まえ、握力を向上させる取組が必要であることから、遊びの中で、握力の向上を目指した活動を考案し、取組の成果を検証して、改善を図る必要がある。

【宗谷管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 1市8町1村
- ・小学校数：21校
- ・中学校数：34校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・組織的・継続的な検証改善サイクルの確立
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革
- ・学校や家庭、地域と連携を図った、日常的な運動機会の創出

■ SOYA ALL 研修会【体育】の実施

【取組①】

- ・管内の小・中学校の教員を対象に、小学校体育専科教員を講師として集合研修を行い、単元を見通した授業づくりや児童生徒が運動の楽しさを実感できる場の設定、教具について、説明及び実技講習を行った。



【SOYA ALL研修会（体育）の様子】

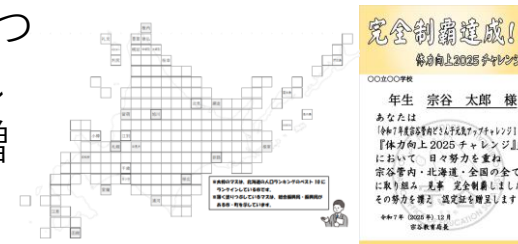
【成果と課題】

- 参加者の日常の授業づくりや実技指導における悩みなどについて、体育専科教員から直接学ぶことで、授業改善のきっかけになるとともに、参加者同士がつながる機会とすることができた。
- 離島の学校に勤務する教員は参加することが難しかったことから、より多くの教員が参加できるよう、日程や会場を工夫する必要がある。

■ 宗谷管内どさん子元気アップチャレンジの実施

【取組②】

- ・宗谷管内の各学校における体力向上の取組の充実や児童生徒の運動習慣等の確立に資することを目的に、宗谷管内どさん子元気アップチャレンジ「体力向上2025チャレンジ」を実施した。
- ・200m走るごとにマスを一ツ塗り、全てのマスを制覇した児童生徒に、認定証を贈呈した。



【成果と課題】

- 3種類の記録カード（20km、42km、90km）を作成し、児童生徒がチャレンジする内容を選択できるようにするとともに、学校だけでなく、家庭での取組を記録できるようにしたことにより、多くの児童生徒が自己目標を達成することができた。
- 児童個々が自分で決めた目標の達成に向けて取り組むことができるよう、記録カードの内容などについて検討する必要がある。

【オホーツク管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 3市14町1村
- ・小学校数：71校
- ・中学校数：49校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・新体力テスト等の結果分析を踏まえた授業改善
- ・学校の創意工夫により、体育・保健体育の授業以外の児童生徒の体力・運動能力の向上を図る取組の推進

■ 楽しさや喜びを味わうことができる指導の工夫

【取組①】

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査生徒質問調査において、「保健体育の授業は楽しい」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回ったことから、運動の楽しさや喜びを味わうことをねらいとし、チームでの課題共有や解決の場面を設定することにより、生徒一人一人がゲームへの積極的な参加や得点への関与等、成功体験を得られるよう、単元の指導計画を工夫した。

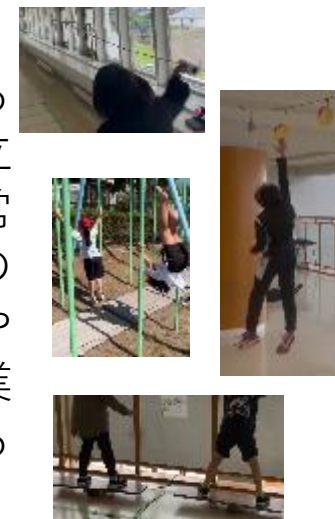
【成果と課題】

- チームで課題解決を図り、シュートの成功体験が増えたことにより、単元終了後のアンケートでは、「運動の楽しさを感じられた」と肯定的に回答した生徒が91%になった。
- 管内において、「保健体育の授業は楽しい」と肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っていることから、授業改善に係る好事例を普及するなど、管内全体で取組を進める必要がある。

■ 体力向上に向けた授業以外の場の設定

【取組②】

- ・児童の体力、運動能力の向上を図るとともに、望ましい運動習慣を確立することをねらいとし、校内の日常的に目に入る場所に新体力テストの種目に結び付く運動ができる器具やスペースを設けることにより、授業以外でも運動に親しむことができるようにした。



【成果と課題】

- 児童が日常的に運動に親しむ機会が増えたことにより、質問調査の「中学校で授業以外でも自主的に運動したい」と肯定的に回答した児童の割合が、前年度と比べて10ポイント以上上昇した。
- 管内において、「授業以外でも自主的に運動したい」と肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を下回っていることから、本実践を普及するなど、管内全体で取組を進める必要がある。

【十勝管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

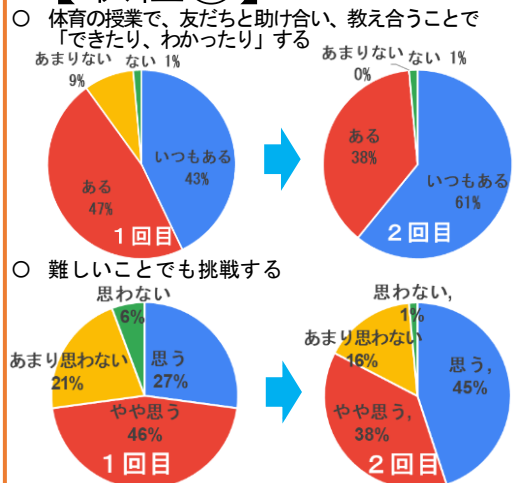
- 1市16町2村
- ・小学校数：81校
- ・中学校数：48校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・新体力テスト等の活用による体育・保健体育の授業改善や体力向上の取組の推進
- ・児童生徒の健康問題の解決に向けた実効性のある学校保健委員会を通じた学校保健組織活動の活性化

■ 自己の変容を実感させる授業づくり

【取組①】



・単元の前後に、運動・スポーツ及び保健体育科の授業に関する意識調査を実施し、生徒がその結果を比較して自己の変容を自覚したり、運動の楽しさを実感して意欲を高めたりする取組を行った。

【成果と課題】

- 生徒が自己の変容を実感するとともに、育成すべき資質・能力を明確にすることにより、授業の検証及び改善につなげることができた。
- 生徒が自己の変容の理由を振り返る活動や互いの成果を賞賛する活動を通して、自己存在感を実感できる機会を確保するなど、学びの意欲を一層高める取組を進めていく必要がある。

■ 運動していることを実感し、意識付ける取組

【取組②】



・学校内に「歩くこと」や「階段を上ること」などの日常的な身体活動も運動であることを実感したり行動喚起したりするような掲示物を設置するとともに、生徒会による歩数計の貸出しなどを通じて、日常の学校生活の中での運動を意識付ける取組を行った。

【成果と課題】

- 歩くことの大切さを実感し、「できるだけ歩いて登校しよう」と意識する児童生徒が増えるとともに、歩数を意識することで一日の運動量について考えるなど、児童生徒の運動に対する関心を高めることができた。
- 体づくり運動と個人の体力向上の計画との関連を図ることで、より効果的な体力向上の取組を推進する必要がある。

【釧路管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 1市6町1村
- ・小学校数：52校
- ・中学校数：35校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による自立した学習者の育成
- ・子どもの実態を踏まえた体力向上の取組の充実

■ 運動が苦手な児童生徒のための授業づくり

【取組①】

- ・体育授業改善研修会を開催し、模擬授業や実技研修、協議を通して、運動が苦手な児童生徒が「できた、わかった」を実感することができる体育の授業づくりのポイントについて理解を深めた。



【成果と課題】

- 単元の流れを体験しながら学ぶことを通して、児童生徒が「できた、わかった」を実感することができる目標の設定や場の工夫など、具体的な授業づくりのポイントを学ぶことができた。
- 体育の指導に不安がある教員にも取組の成果を広げることができるよう、普及方法を工夫する必要がある。

■ 対象を明確にした体力向上の取組

【取組②】

- ・小学校において、児童会が主体となって、運動が苦手な児童でも、「これならできるかも」と感じたり、運動に親しんだりすることができる体力向上の取組を計画して実施した。



【成果と課題】

- 普段、グラウンドや体育館で遊ばない児童が、運動に参加したり、見学したりする姿が見られ、運動に親しむ機会の拡充を図ることができた。
- 主体的に活動に参加できなかった児童もいたことから、「手軽に」「周囲の目を気にせず」に取り組むことができる運動の場の設定や内容、教師の関わりを工夫する必要がある。

【根室管内の特色ある取組】

■ 管内の概要

- 1市4町
- ・小学校数：23校
- ・中学校数：19校

■ 体力向上に向けた取組の重点

- ・授業改革の推進
- ・学習ツールとしてのICTの活用
- ・検証改善サイクルの質的向上

■ 運動の楽しさを味わわせる指導の工夫

【取組①】

- ・低学年のボールゲームでは、フラフープやペットボトルなど様々な的を用意することにより、児童が楽しみながら簡単なボール操作を行えるよう工夫した。
- ・また、相手が倒しにくい的の置き方や的を倒すための投げ方を児童が考える時間を設定した。



【成果と課題】

- 児童が楽しんで運動したり、思考・判断したりすることができるよう場の設定や教材・教具を工夫したことにより、児童は、的にボールを当てる楽しさや、的を倒せたときの爽快感を味わい、運動の楽しさを実感することができた。
- 児童が自分の課題に応じて用いるボールを選択できるようにして、運動の楽しさをより一層味わえるよう工夫する必要がある。

■ 運動の大切さを感じさせる指導の工夫

【取組②】

- ・体育の授業以外に、全校が一斉に運動に取り組む「マラソン週間」と「なわとび週間」を年2回ずつ設け、児童が互いに励まし合いながら継続して運動に取り組み、運動の大切さを感じることができるよう工夫した。
- ・また、児童一人一人が自分で目標を設定することで、目標の達成に向けて主体的に運動に取り組むことができるようにした。

【成果と課題】

- 児童が自分で設定した目標の達成に向けて、継続して運動に取り組む機会を設定したことにより、児童は継続して運動することで、できなかったことができるようになったり、体の調子がよくなったりするなど、運動の大切さに気付くことができた。
- 運動週間を設けなくても、児童が日常的に運動に取り組むことができるよう、家庭と連携した取組を推進する必要がある。